

Life is so precious!

仕事も人生も もっと楽しく! 美しく! — ①

撮影・取材 / Kiyomi Yui レイアウト / attik
文 / 剣持亜弥 (HATSU) 構成 / 大庭典子 (HATSU)



子供にとっての心地よさとは? 温かく論理的な空間デザインが オランダの保育園を変えていく

子供の空間デザイナー・アドバイザー
シモーネ・ソルベルさん

37歳。美術大学で彫刻を専攻。保育園で働いていたこともある。現在は保育園のインテリアデザインを手がけるほか、子供の空間デザインのアドバイザーとして、ワークショップや、保育士や保育園のマネージャーを対象にトレーニングも行う。9歳の娘と7歳の息子、ご主人との4人暮らし。

私のクライアント、多くの場合は保育園だけ、その依頼はつねに「もっと居心地よくして」ということ。それはすごく難しい。子供たちが長い時間を過ごす保育園は、当然、とびきり居心地のいい空間でなければならぬけれど、同時に、安全性や片づけやすさ、予算など、とても制限の多い場所でもあるの。でも、厳しい条件のなかであれこれ工夫しながら構想を練り、チャレンジを重ねていくことも、この仕事の醍醐味でもあるんだけど(笑)。

子供の空間をつくるためには、まず、子供を知ることが大切。彼らの興味の真のありどころや、各年齢に特徴的な行動パターンを徹底的に知りつくして、成長に合わせた「挑戦」や「発見」を、インテリアデザインや収納方法に織り込んでいく。たとえば、2〜3歳の子供たちって、フタや小さな扉を開けたり閉めたりするのが大好きなのよね。細かく区分けされた箱に、延々と物を入れたり出したりして、楽しそうに遊ぶ。だから、小さく区分けした箱にたくさんのおもちゃをひとつずつしまっていくような収納を考えてみた。そうすれば、片づけを遊びの環境にしながら、すべての物に所定の場所がある」ということを学ばせること

ができる。そして、その「所定の場所」という感覚をもつことで、子供たちは遊びや食事といった行為にも、より集中することができるようになるの。家だってそう。家族がうまく機能するには、そのための空間づくりがしっかりとできていることが必須。だから私は、大切な仕事があるときこそ、家のこと、子供のことをきちんと整えておくような心がけている。逆に言えば、そこで手を抜いてしまったら、仕事になんて集中できないのよ、私(笑)。

いつの日か、ゼロから保育園をつくりたい。子供が快適に過ごせる世界は、だれにとっても心地のいいものだから。

世界各国キャリアへ、5つの質問

- Q1 仕事の成功のためにしている習慣は?
植物のパワーで心身を癒す療法、バッチフラワーレメディ。
- Q2 バッグに必ず入っているもの3つは?
鍵、レシートで破損しそうな財布、アイデアを書き留めるメモ帳。
- Q3 あなたの街のストレス解消スポットは?
冬なら自宅の暖炉の前。お風呂の中もストレス解消スポット。
- Q4 理想の週末の過ごし方は?
夏は家族でサーフィンに。市場に出かけたり、友人と集うのも好き。
- Q5 人に言われてうれしいほめ言葉は?
「リデザインされてから、子供たちが落ち着いて遊べるようになった」

AMSTERDAM

